

## 第5回三次中学校区学校運営協議会(2/28)を終えて

令和5年2月28日(火)に、見出しの協議会が三次ふれあい会館で行いました。

### 1 みよし教育フェスタ(1/29)「コミュニティ・スクールの実践について」発表報告

三次ケーブルビジョンの協力を受け、これまで中学校区で行ってきた様々な地域との協働活動を、動画により、子どもたちの実際の姿を通して発表することが出来た。日常の児童・生徒・地域の皆さんが自らの関りが、他の喜びの源になっている様子をよくわかっていただいたと思う。

参加者からも「各学校が共通の目標のもと、地域と連携しながら取り組まれている様子がよく分かった。」「今までの学校と地域をつなぐ活動をより発展させていく必要があることに気づかされ、数々の活動の紹介により、具体的なイメージが湧いた。」「人づくり、人と人とのコミュニケーションが、地域づくり、まちづくりにつながることがよく分かった。」など多くの意見が寄せられた。(詳細は、ともえ2040 NO.36 参照)

その後、広島県教育委員でもある志々田まなみさんによる「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進」と題して、「コミュニティ・スクールと地域協働活動が、今なぜ求められているか」等について講話があった。

### 2 各学校評価に係る年度末のまとめ(詳細については各学校自己評価表をHPより参照)

#### ・三次中学校

学力については、三次市学力到達度検査で1学年はおおむね良好であったが、2学年が国・数・英で全国平均を下回っており、正答率30%未満の生徒が平均8%弱いる。キャリア教育をさらに計画的に進め、自分の生き方を考えることで、学習の大切さを各自認識し、着実な取組を継続させていく。

3つの資質・能力や非認知能力と言われる「成功体験と自信」「他者評価」「発信力」については、全国平均を上回っており、学年が進むにつれてその傾向は顕著になっている。これは、地域との継続的な関わりの実現や本物の社会との出会いによる学習とのつながり、そして励ましていただける評価者が増えたことによる自己効力感の向上によるものと考えられる。

#### ・三次小学校

学力については、今年度は全学年が落ち着いて学習、生活に取り組む様子が見られ、三次市学力到達度検査で、6学年中、4学年は全国平均を上回り、昨年度と比較すると昨年課題であった学年が大幅にポイント向上し成果が上がっている。主体的で対話的な授業づくりとコミュニティ・スクールとしてキャリア教育の充実、学校行事への児童の主体的な取組が効果的であった。また今年度から導入した高学年の教科担任制も学力向上につながった。

3つの資質・能力である「主体性」「協調性」「コミュニケーション能力」は児童アンケート項目においても肯定的に答えた児童の割合が70%以上であった。特に「協調性」は前期に比べ後期が高くなり、学校行事や学習場面で友達と一緒に取り組む中で、相手の事を考え、協力しながら行動できたと感じている児童が増えた。様々な地域の方の協力で豊かな経験や学習活動ができ、自己肯定感や地域への愛着を実感することができた。

#### ・河内小学校

学力については、三次市学力到達度検査で全学年とも全教科全国平均以上となり、概ね定着している状況であった。しかし、個人で見ると、未だ読解力に課題があるため、授業改善と並行して、個別の指導を継続している。

自己肯定感については、挑戦できる機会をつくる、作品応募に力を入れるなどを行うことを通して、苦手なことにも挑戦しようとする児童が増え、向上が見られた。大きな場で、自分を出すことができない課題があるため、表現の場を意図的に設定し、自信を得させることを積み上げるように引き続き取組を進める。

今年度より、少しずつ地域との協働活動が行えるようになり、児童は、がんばる姿を地域の方に認めていただく機会が増え、多くの“輝く姿”を見ることができた。

### 3 その他 各委員より

- ・学校評価については、評価項目等を統一した形で整理すべきである。
- ・子供たちが、地域の中で育っているという実感を持たせることを通して、成功体験と自信を持たせたい。
- ・互いの目指す想いを学校、保護者、地域でもっと熟議してより良いものにしていきたい。
- ・来年度の活動計画を内容と時期が分かりやすいもので共有できれば、みんなで色々知恵を出し合い、さらなる深化が図れる。
- ・この運営協議会に子供の姿(子供の生の声)がもっと見えるようにしてほしい。そして、それが反映できるよう、子供からの発信の取組も大切にして、評価・改善していきたい。
- ・親同士のつながりも弱体化してきている。保護者を巻き込み、保護者同士のコミュニティづくりの役を、このコミュニティ・スクールが担うこともできるのではないか。
- ・三次中学校区の強みは、非認知能力の向上であり、学年が上がるにつれて着実に伸びている。
- ・このコミュニティ・スクールの活動も、協働から協創へと進化しつつある。